

すべて疲れた人、重荷を負っている人はわたしのもとに来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげます。わたしは心が柔和でへりくだっているから、あなたがたもわたしのくびきを負って、わたしから学びなさい。そうすれば、たましいに安らぎを得ます。わたしのくびきは負いやすく、わたしの荷は軽いからです。

マタイの福音書 11 章 28 ～ 30 節

罪人を深く愛したイエス様は神の国の福音を知らせ人々を救いに招くために弟子達を町々に遣わし、ご自身もまた伝道へと進みました(1)。しかし、イエス様の思いとは裏腹に、世は神の招きを拒絶します。

イエス様の前に現れたのはバプテスマのヨハネの弟子です。ヨハネはイエス様の称賛を受けるほど神の国の福音に仕えた人物でした(11)。そのヨハネが牢に繋がれているのです。世がいかに神に敵対しているかを象徴する出来事で、どれほどイエス様

の心の痛みだったでしょう。16 節以降には福音に心を開かない世の人々に対するイエス様の嘆きと憤りが述べられています。

その上でイエス様は「すべて疲れた人、重荷を負っている人はわたしのもとに来なさい」(28)と告げます。

これは第一には弟子達に向けられた言葉です。福音に敵対する世をキリスト者として歩み福音を証することがどれだけたいへんかをイエス様は身をもって経験しました。それゆえに、主はご自分の弟子達に安息を

与えようと招いておられるのです。

「重荷」とは律法主義のことです(23 章 4 節)。人々は律法主義者やパリサイ人から律法を守り行わないと救われないと教えられていました。神に頼らずに自分の頑張りで救いを得ようということです。それは世の価値観であり、まさに重荷を負うことで安らぎのない道です。

主はそれとは反対です。「わたし(イエス様)のくびきを負う」とは、自分で頑張ることを手放してイエス様の前に頭を垂れ、イエス様と歩調を合わせることです。それはイエス様も私たちに歩調を合わせてくださるということでもあります。そのような生き方に、イエス様による安らぎが与えられると聖書は約束します。それが主と共に歩むことです。(泰)

【報告 消息】

・ホザナデイキャンプ 報告

9日、蒲田教会を会場にオンラインとの併用で実施。参加者が少数であることと、顔を合わせたいというメンバーの心の必要を考えての対応でした。

感染対策の意味もあり前半は会堂内に分散してネットを使ってレクリエーション。後半は礼拝堂で賛美とメッセージでした（後半部分は、今でも教会ホームページから視聴できます）。

講師の水梨先生はザアカイの話からのメッセージで、分かりやすく恵み深く、メンバーの心に届いて励ましとなりました。コロナが落ち着いたらぜひ泊まりがけで集まりたいねと、笑顔で約束しました。

・林眞光修養生 17日より22日まで石岡教会での奉仕です。ペンキ塗りや祈祷会奉仕、礼拝奉仕などの予定です。暑さが続きます。霊肉が支えられるようにお祈りください。

・本日は日本にとっては終戦記念日です。日本が再び戦禍に巻き込まれないように祈りましょう。また、コロナ禍に襲われている日本、世界が穏やかな日常を得られるように祈りましょう。

■教勢報告

* 8月8日

第1礼拝 12名

第2礼拝 4名

小学科礼拝 小3名

ホザナ礼拝 中2名

■お祈りください

* 小学科アウテイング

日程 8月27日（金） 萩中プール

* 創立87周年記念礼拝

日程 9月5日（日）

説教 荻野牧師

第1礼拝と第2礼拝を予定しています。